

道口上計、御連名狀御用番ニ差上候之旨演之、前月廿五六日頃到著之事、在所使者を不差越、江戸ニ居候者を以、獻上も有之、其砌留守居計罷出御用番へ罷出奉伺獻上之御内意、御年寄へ伺も有之、

〔憲教類典一ノ二十一〕慶安三庚寅年九月廿二日

諸大名御祝儀獻上之御書立○中略

一如年始三千石以上、太刀目録ニ而御禮可申上候事、

一總領二番目三番目迄之子息、例年歲始之御禮申上候衆者、太刀目録にて御禮可有之事○中略

九月廿二日

〔憲教類典一ノ二十二〕寶永元甲申年十二月廿八日

一中納言様○徳川家宣江年始獻上之御太刀、上様○徳川綱吉江御太刀獻上之使者、壹人ニ而相兼候様ニ

可被相達候以上、

十二月廿八日

〔當時珍説要秘録三〕殿中行事之事

一二日御禮は、元日に殘候衆中、大小名罷出候事、尤是は家柄にはより不申候、冬年大目附中より

割合の書附出候て、込合不申様、元日二日と相替へ申候、尤御家門御連枝、御三家は、決て元日の

御禮なり、且御役人二日御禮の分は、青銅一貫文宛獻上也、元日の御役人御禮は獻上に不及事、

〔天保集成絲綸錄二〕文化十三子年十一月

大目付へ

年始八朔、其外諸御禮等之節、獻上之御馬代之儀、年始ハ正月、中、八朔ハ八月中、其外諸御禮之節、獻

上之御馬代ハ、其月切に御納戸江相納可申候、